



新長田眼科病院の
吉富幸徳さん(右)
と山下浩治さん。

紙の紹介状や検査結果等をスキャンしてデータ化し、 バーコードにより電子カルテに自動保存

医療現場で大量に発生する書類のスキャンに「fiシリーズ」を導入、 業務の大幅な円滑化と効率化を実現

兵庫県神戸市長田区の新長田眼科病院は全国的にも数少ない、入院可能な眼科専門病院です。外来に月間4,000人もの方が訪れる同院では、電子カルテシステム「MI・RA・Is/AZ」（株式会社シーエスアイ製）の導入に伴い、医療現場で大量に発生する紙の書類をスキャンしてデータ化し、電子カルテに集約する運用を開始しており、2024年8月には専用のスキャナーとして計4台の「RICOH fi Series」（以下、fiシリーズ）を導入しました。その運用フローならびに「fiシリーズ」採用の理由、現場での評価や導入効果を詳しくうかがいました。

課題 紙書類をスキャンしてバーコード認識によりイメージデータを電子カルテに自動保存する運用にあたり、よりスムーズにスキャンできる機器が求められていた。

解決法 リコージャパン株式会社の紹介を受けて「fi-800R」1台と「fi-8040」3台を導入、専用スキャナーとして受付や病棟に配置。

効果 受付での書類・保険証のスキャンが円滑化したほか、スキャナーの「スキャンボタン」を押すだけで取り込みが完了する設定により病棟でのスキャンが大きく効率化。また「PaperStream Capture」の「自動仕分け機能」活用によりイメージデータの自動保存がよりスムーズになった。

紙書類をデータ化し自動で電子カルテに連携する運用のスキャン専用機に 「fiシリーズ」を導入

——IT推進室 室長の吉富幸徳さんと、医事課 医療情報技師の山下浩治さんにお話をうかがいます。新長田眼科病院では2019年に紙の書類をデータ化して電子カルテに統合する運用を開始し、2024年8月にはそのためのスキャン専用機として「fiシリーズ」を導入されました。どのような書類をスキャンしているのでしょうか。

山下さん 患者様が記入された問診票、他院の紹介状や検査結果などです。こうした情報は今なお99パーセントが紙で、書類のサイズや紙質は統一されておらずバラバラです。

——今回「fiシリーズ」を導入された理由をお聞かせください。

吉富さん 5年にわたり複合機と他社製スキャナーで書類をデータ化し

てきましたが、何人分かを重ねてスキャンしようとしても、さまざまなサイズ・紙質の書類が混在していると給紙に失敗することが多く、書類を仕分けるなどの事前作業を要していました。この手間をなくして円滑にスキャンできるようにするため、リコージャパン株式会社の紹介を受けて高性能な「fiシリーズ」を導入しました。



スキャン対象の書類。サイズ・紙質はさまざまです。写真のプリントをスキャンすることもあります。



バーコード付きの台紙を書類に重ねてスキャンし、電子カルテに自動で保存します（裏面参照）。

——「fiシリーズ」導入により手間と時間は削減されましたか。

山下さん 「fiシリーズ」は給紙性能が高く、エラーがほとんど発生しないので、書類をサイズ別・紙質別に揃える作業が不要になりました。また、横向きの書類を縦にスキャンしてもイメージデータを自動で横向きにしてくれるので、手動で回転させる手間も省けています。一日に数十分は短縮されているでしょう。

省スペース性に優れた「fi-800R」、タッチパネル操作が直感的な「fi-8040」、バーコード認識が可能な「PaperStream Capture」の相乗効果で医療業務の効率が大幅に向上

——導入されたのは窓口業務向けのA4コンパクトスキャナー「fi-800R」を1台と、ベーシックなADFスキャナー「fi-8040」を3台です。 「fi-800R」はどこに配置していますか。

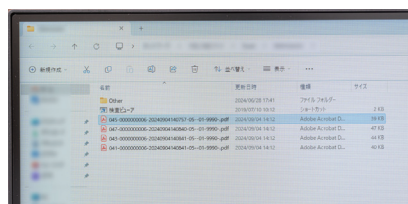
山下さん 手前に排紙トレイのないUターン式スキャン方式の「fi-800R」は狭い場所にも設置できるので、受付カウンター内に置き、紹介状や問診票、同意書やお薬手帳のコピーなど、さまざまな書類をスキャンしています。枚数は多いときで一日に100を超えます。



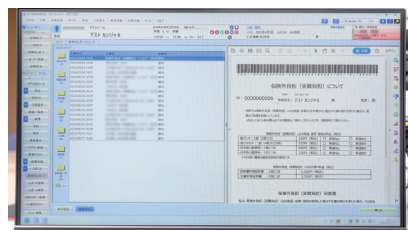
原稿が上方に戻るUターン式スキャンを採用した「fi-800R」は窓口業務に最適です。

——書類スキャンから保存までのフローを教えてください。

山下さん 紙の書類はまず診察室に回り、診察後に医師が確認印を捺します。その間に受付ではバーコードの台紙を印刷しておき、書類が戻ったら台紙と書類を順に重ね、手が空いたときに数人分をまとめてスキャンします。



仮保存されたイメージデータ。これをバッチ処理によって電子カルテに自動で紐付けます。



自動保存後にシステム画面でイメージデータを確認します。

吉富さん スキャン後、イメージデータには「PaperStream Capture」の機能でバーコードの数字がファイル名として付与されます。これをフォルダーに仮保存してから、電子カルテシステムと連携しているクライアントPCでバッチ処理を実行すると、患者様ごと・書類種別ごとに電子カルテシステムへ自動で保存されます。その結果をシステムの画面上で確認して完了です。

山下さん なお「fi-800R」はプラスチックカードも読み込めるので、保険証のスキャン

——さらには「fiシリーズ」標準添付ソフトウェア「PaperStream Capture」の「自動仕分け機能」も活用しておられるとか。

吉富さん 電子カルテシステムが患者様ごと・書類種別ごとに生成するバーコードを台紙に印刷して書類に重ねてスキャンし、「PaperStream Capture」の機能を活用して電子カルテの文書フォルダーに自動で振り分けて保存しています。

にも活用しています。保険証はバーコードなしでスキャンし、手動で電子カルテシステムに取り込みます。

——「fi-800R」に対する評価をお聞かせください。

山下さん 何よりも省スペース効果が大きく、受付スペースの運用がかなりスマートになりました。

「fi-800R」で保険証もスキャン。挿入したカードが手元に戻ってくるリターン式スキャン方式です。



——一方の「fi-8040」はどちらに配置されていますか。

吉富さん 1台目を外来の処置室、2台目を病棟に配置しています。ともに「fi-800R」同様、バーコードによる書類スキャンがメインで、病棟では入院計画書などの入院準備書類が多くなります。3台目は地域連携室に置き、主に一般書類をスキャンしています。

——スキャナーの「スキャンボタン」を押すだけで、PCを操作することなく簡単にスキャンが完了するよう設定されているとか。

吉富さん PCに触れる必要がないため、PCに不慣れな人だとソフトウェア立ち上げ段階で手間取ることがあったといった問題が解消され、現場の効率が大きく向上します。

実際、「fiシリーズ」によって最も利便性が向上したのは病棟です。以前は複合機を使っていましたが、枚数が多いときは受付にスキャンを依頼していました。その非効率性が解消された上に、操作がボタンを押すだけになったので、一気に効率化を果たせました。



病棟の「fi-8040」。サイズがコンパクトなので限られたスペースにも設置できます。



PCに触れることなく、タッチパネル上の大きなボタンを押すだけでデータ保存までが完了します。

※MI・RA・Isは株式会社シーエスアイの登録商標です。

